

事業番号	76
------	----

平成24年度事業評価シート（平成23年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	のびのび預かり事業			担当課	子育て支援課	
事業期間	開始年度	平成16年度	～	終了予定年度	担当係	子育て支援センター
総合計画	めざすまちの姿	2 ふれあいいふれる、はつらつとしたまち				
	目標	⑤ 母と子を大切に作る（児童福祉）				
	成果指標			中間目標 (H27)	最終目標 (H32)	
予算区分	一般会計	3 款 民生費		2 項 児童福祉費		1 目 児童福祉総務費
	細事業	107 子育て支援センター運営事業費				
位置づけ	関連計画					
	根拠法令	湖西市のびのび預かり事業条例・湖西市のびのび預かり事業実施条例施行規則				
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input type="checkbox"/> その他					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（					
対象（誰のため）	<input type="checkbox"/> 全市民 <input checked="" type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他					
事業の目的（何のため）	家庭における専業主婦等の育児疲れを解消するとともに、次代を担う児童の健全な育成を図るために子育て家庭を支援する。					
内容（概要）	<ul style="list-style-type: none"> 平成16年度に、通院・買い物・参観会・リフレッシュ等時間が作れない母親の育児を手助けするために試行として実施。 平成17年度から条例を施行し実施。 保育士による2歳から就学前の幼児を対象とした一時預かり、専業主婦等の育児疲れを解消するため。 開設日 毎週火・木曜日 開設時間 9:00～12:00 13:00～16:00 場所 子育て支援センター 内容 (1)一時預かりに関すること 工作体験・粘土遊び・プール遊び・おやつ提供 (2)利用者同士の交流の促進に関すること 定員 概ね12人 					
これまでの改善・見直しの状況	健康福祉センターおほとで平成22年5月末まで実施していたが、子育て支援センター開館とともに、開設場所を移動した。					

2. コスト

(単位:千円)

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費	
事業費	予算	2,778	2,733	2,731	(内訳)	
	決算	2,587	2,571		人件費(報酬)	2,526
財源内訳	国庫支出金		922		物件費(需用費)	45
	県支出金				2,571	
	地方債					
	その他	1,274	1,199	955		
	一般財源	1,313	450	1,776		
職員人件費	1,320	1,280	2,252	人工	0.2 人	

3. 事業の評価

事業の実施状況

活動指標	内容	単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率
	利用者数 (目標 前年度実績)	人	目標	1,549	1,581	1,459
実績			1,581	1,459		
		目標				#DIV/0!
		実績				
		目標				#DIV/0!
		実績				

平成23年度 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 通院・買い物・参観会・リフレッシュ等時間が作れない母親のために一時預かりを実施した。保育士が、子どもたちを、おもちゃ・工作体験・プール遊びなどをして遊ばせる。また、おやつを提供を行った。 				
課題・問題点 となった事項	<ul style="list-style-type: none"> 5月から7月の午後の利用者数が、大幅な減少となった。 				
どう対処したか	<ul style="list-style-type: none"> 「子育て支援センターだより」や利用者への広報活動により、年度の後半は前年並となった。 				
改善点					効果額 H24-H23 (千円)

自己評価	事業目的の 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 専業主婦等の育児疲れや急な用事に対応して、母親の手助けをすることができた。 子どもたちの集団での遊びを通し、幼稚園へのステップを踏むことができ、児童の健全な育成に寄与した。 			
	※必要性 事業を廃止・休 止したときの影響	<ul style="list-style-type: none"> 遊び盛りの子どもたちを見ている母親が、育児疲れが原因で、児童への虐待も懸念されることから、母親のリフレッシュが必要である。 			
	判定	A継続	現行の内容で実施	事業主体	市
	判定理由	<ul style="list-style-type: none"> 一時預りの実施により、母親の育児の手助けと児童の健全育成を図れた。 			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動を充実し、利用者の増加を図っていく。 				